

後藤圭佑 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久
副主査 岡 田 太
同 藤 原 義 之

主論文

The impact of AMIG02 on prognosis and hepatic metastasis in gastric cancer patients

(胃癌患者におけるAMIG02の予後および肝転移に及ぼす影響について)

(著者：後藤圭佑、森本昌樹、尾崎充彦、谷尾彬充、井筒瑠奈、藤原義之、岡田太)

令和4年 BMC Cancer 22巻 280

参考論文

1. Inflammation-related carcinogenesis: Lessons from animal models to clinical aspects

(炎症関連発がん：動物モデルから臨床への教訓)

(著者：岡田太、井筒瑠奈、後藤圭佑、尾崎充彦)

令和3年 Cancers 13巻 921

2. Establishment of an antibody specific for AMIG02 improves immunohistochemical evaluation of liver metastases and clinical outcomes in patients with colorectal cancer

(AMIG02特異的抗体の確立による大腸癌患者における肝転移の免疫組織化学的評価と臨床転帰の改善)

(著者：後藤圭佑、尾崎充彦、井筒瑠奈、田中博志、佐々木諒、谷尾彬充、
里深博幸、香月康宏、山本学、久郷裕之、井藤久雄、押村光雄、藤原義之、
岡田太)

令和4年 Diagnostic Pathology 17巻 16

3. Surgical administration of indocyanine green in hepatectomy for improved bile leakage detection

(肝切除術におけるインドシアニングリーンの外科学的投与による胆汁漏検出の改善)

(著者：花木武彦、後藤圭佑、森本昌樹、村上裕樹、松永知之、山本学、徳安成郎、坂本照尚、長谷川利路、藤原義之)

令和4年 ANTICANCER RESEARCH 42巻 4787頁～4793頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は独自に作製したヒトAMIG02に対する特異的モノクローナル抗体(rTNK1A0012)を用い、免疫組織化学的に胃癌におけるAMIG02の発現を解析し、胃癌における種々の転移および臨床転帰との関連を解析したものである。その結果、胃癌組織でのAMIG02高発現が独立した予後不良因子であることを明らかにし、さらに肝転移と相関することを示している。本論文の内容は、免疫組織化学的なAMIG02の発現度で胃癌患者の予後を予測できることを初めて明らかにしたものである。胃癌におけるAMIG02の発現度は患者の予後および肝転移の発生を予測するのに有用で、胃癌の新規バイオマーカーとなる可能性があることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。